

「政策の目標」		政策目標 5 - 3 : 税関手続における利用者の利便性の向上																																																																									
評 価 意 見																																																																											
評価基準ごとの審査		評価の判断理由等																																																																									
1 「政策の目標」の達成度 B 達成に向けて進展があった。		(基本的状況) 貿易の秩序維持と健全な発展を目指すに当たっては、輸出入通関・保税その他の税関手続について、国際物流の変化や技術の進歩に対応するとともに、適正な通関を確保しつつ、簡便な手続と円滑な処理を実現することが重要である。このため、税関手続に係る制度等の改善を図るとともに、輸出入者の方々に対する積極的な情報提供を実施し、税関行政の透明性を確保する必要がある。																																																																									
<table><tr><th>業績指標</th><th>目標値</th><th>実績値</th></tr><tr><td>輸入通関における平均所要時間</td><td>向上</td><td></td></tr><tr><td>海上</td><td>4.3(67.1)</td><td>3.3(63.8)</td></tr><tr><td>航空</td><td>0.4(17.0)</td><td>0.4(14.4)</td></tr><tr><td>輸出入通関における利用者満足度</td><td>向上</td><td></td></tr><tr><td>輸出入者</td><td>24.5%</td><td>19.0%</td></tr><tr><td>通関業者</td><td>33.0%</td><td>29.5%</td></tr><tr><td>NACCS の運用状況 (システム稼働率)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>航空</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>海上</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>CuPES の運用状況 (システム稼働率)</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>NACCS の運用状況 (システム処理率)</td><td>前年水準維持</td><td></td></tr><tr><td>輸出許可</td><td>98.0%</td><td>98.3%</td></tr><tr><td>輸入許可</td><td>97.5%</td><td>97.7%</td></tr><tr><td>CuPES の運用状況 (処理件数)</td><td>増加</td><td></td></tr><tr><td></td><td>103,969 件</td><td>115,422 件</td></tr><tr><td>輸入通関の迅速化のための制度の利用による通関所要時間</td><td></td><td></td></tr><tr><td>海上 予備審査制</td><td></td><td></td></tr><tr><td>利用有</td><td>2.0(51.3)</td><td>1.5(49.8)</td></tr><tr><td>利用無</td><td>5.1(73.1)</td><td>4.2(70.9)</td></tr><tr><td>航空 予備審査制</td><td></td><td></td></tr><tr><td>利用有</td><td>0.2(5.0)</td><td>0.1(2.0)</td></tr><tr><td>利用無</td><td>0.5(31.7)</td><td>0.7(29.0)</td></tr><tr><td>到着即時利用有</td><td>0(0.2)</td><td>0(0.4)</td></tr></table>		業績指標	目標値	実績値	輸入通関における平均所要時間	向上		海上	4.3(67.1)	3.3(63.8)	航空	0.4(17.0)	0.4(14.4)	輸出入通関における利用者満足度	向上		輸出入者	24.5%	19.0%	通関業者	33.0%	29.5%	NACCS の運用状況 (システム稼働率)			航空	100%	100%	海上	100%	100%	CuPES の運用状況 (システム稼働率)	100%	100%	NACCS の運用状況 (システム処理率)	前年水準維持		輸出許可	98.0%	98.3%	輸入許可	97.5%	97.7%	CuPES の運用状況 (処理件数)	増加			103,969 件	115,422 件	輸入通関の迅速化のための制度の利用による通関所要時間			海上 予備審査制			利用有	2.0(51.3)	1.5(49.8)	利用無	5.1(73.1)	4.2(70.9)	航空 予備審査制			利用有	0.2(5.0)	0.1(2.0)	利用無	0.5(31.7)	0.7(29.0)	到着即時利用有	0(0.2)	0(0.4)	(18 年度の運営概況) 18 年度は、リスク管理に基づく重点的な審査・検査の実施、大型 X 線検査装置等の検査機器の有効活用、税関の執務時間外における通関体制の定着等により、輸入申告から許可までの全般的な平均所要時間は、海上貨物について前回より 1.0 時間短縮するとともに、航空貨物についても 0.4 時間と極めて迅速な通関が確保されている。NACCS の稼働率は 100% となった。 また、システム処理率についても輸出入ともに目標を達成した。なお、輸出入通関における利用者満足度は、輸出入者、通関業者ともに前年度実績から減少する結果となった。	
業績指標	目標値	実績値																																																																									
輸入通関における平均所要時間	向上																																																																										
海上	4.3(67.1)	3.3(63.8)																																																																									
航空	0.4(17.0)	0.4(14.4)																																																																									
輸出入通関における利用者満足度	向上																																																																										
輸出入者	24.5%	19.0%																																																																									
通関業者	33.0%	29.5%																																																																									
NACCS の運用状況 (システム稼働率)																																																																											
航空	100%	100%																																																																									
海上	100%	100%																																																																									
CuPES の運用状況 (システム稼働率)	100%	100%																																																																									
NACCS の運用状況 (システム処理率)	前年水準維持																																																																										
輸出許可	98.0%	98.3%																																																																									
輸入許可	97.5%	97.7%																																																																									
CuPES の運用状況 (処理件数)	増加																																																																										
	103,969 件	115,422 件																																																																									
輸入通関の迅速化のための制度の利用による通関所要時間																																																																											
海上 予備審査制																																																																											
利用有	2.0(51.3)	1.5(49.8)																																																																									
利用無	5.1(73.1)	4.2(70.9)																																																																									
航空 予備審査制																																																																											
利用有	0.2(5.0)	0.1(2.0)																																																																									
利用無	0.5(31.7)	0.7(29.0)																																																																									
到着即時利用有	0(0.2)	0(0.4)																																																																									
		(達成度に係る評価の理由等) 以上のように、7 つある業績指標のうち、6 つについてはほぼ目標を達成したところであるが、輸出入通関における利用者満足度が前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。 従って、全体的に進展はしているが、利用者の満足度という客観的な評価において目標を達成できなかったことは相当の進展があったとまでは言えず、「B 達成に向けて進展があった。」と評価した。																																																																									
		(今後の課題) 国際物流におけるセキュリティ強化と効率化を通じ、我が国の競争力の強化を図る観点から、アジア・ゲートウェイ構想等も踏まえ、簡易申告制度、特定輸出申告制度等を基盤とした日本版 AEO 制度の構築を推進するとともに、その制度の内容等について、税関ホームページや説明会等を通じて PR に努め、制度利用者の一層の拡大を図ることが重要である。 輸出入者及び通関業者双方の輸出入通関における利用者満足度が前年度実績から減少しているのは、アンケートの結果によれば、職員の回答・判断にばらつきがあったとされていることから、職員の資質の向上等を図るため、職員研修の抜本的な見直し等による研修内容の充実を図るとともに、文書による事前指示制度のより一層の利用促進、全国レベルでの事例分析やデータベースの一層の活用にも努める必要がある。また、NACCS については、今後ともシステムの管理体制の充実に努めることにより、安定稼働に努める。NACCS 等の税関システムについては、18 年 3 月に決定・公表された「税関業務（輸出入及び港湾手続関係業務）の業務・システム最適化計画」に基づき、次期システムの開発を着実に進めることが極めて重要である。																																																																									
2 事務運営のプロセスの適切性、有効性、効率性 適切であった。 おおむね有効であった。 効率的であった。		(事務運営プロセスに係る評価の理由等) (適切性) 適正かつ円滑な国際物流の実現や利用者の利便性向上に向け、税関手続の改善、積極的な情報提供、制度改正等を適時適切に実施している。 (有効性) 重点的な審査・検査の実施、検査機器の有効活用、執務時間外における通関体制の円滑な実施等により、迅速な通関が確保されている。また、的確なシステム処理が行われている。 (効率性) 通関手続の改善ほか、通関所要時間の短縮やシステム処理率の向上が図られるなど、制度とシステム双方のバランスのとれた施策を実施している。																																																																									
3 結果の分析の的確性 的確に行われている。		(結果の分析の的確性に係る評価の理由等) 税関手続等について多くの業績指標を掲げ、輸入通関所要時間調査、利用者満足度アンケート調査等により計測し、各指標の実績についての的確に分析している。																																																																									
4 当該政策や、政策評価システムの運用の改善への提言 政策について有益な提言がなされている。 政策評価について有益な提言がなされている。		(今後の提言等) (政策の改善) 指標の結果の分析等を踏まえ、日本版 AEO 制度の構築を推進し、簡易申告制度、特定輸出申告制度等の利用者の一層の拡大を図る。また、各種施策により、職員の回答・判断の統一等を図り、利用者の満足度の向上に努める。更に、NACCS 等の税関関係システムについては、上記の業務・システム最適化計画に基づき、次期システムの開発等を着実に推進する。 (政策評価の改善) 19 年度実施計画において、予算との連携を図る観点から、政策目標の見直しを行っている。																																																																									
講 評 (財務省の政策評価の在り方に関する懇談会)	利用者の満足度が低下し、かつその水準も非常に低いことから、「政策の目標」の達成度は「C 達成に向けて一部の進展にとどまった。」が妥当ではないか。 今後の方針を「見直し」としたのは好感が持てる。																																																																										